



決算説明会

2015年(平成27年)5月22日

ネツレン
高周波熱錬株式会社

I 経営実績の推移

II 第12次中期経営計画の実績と第13次中期経営計画

III 新商品・新技術の開発、新規事業の推進

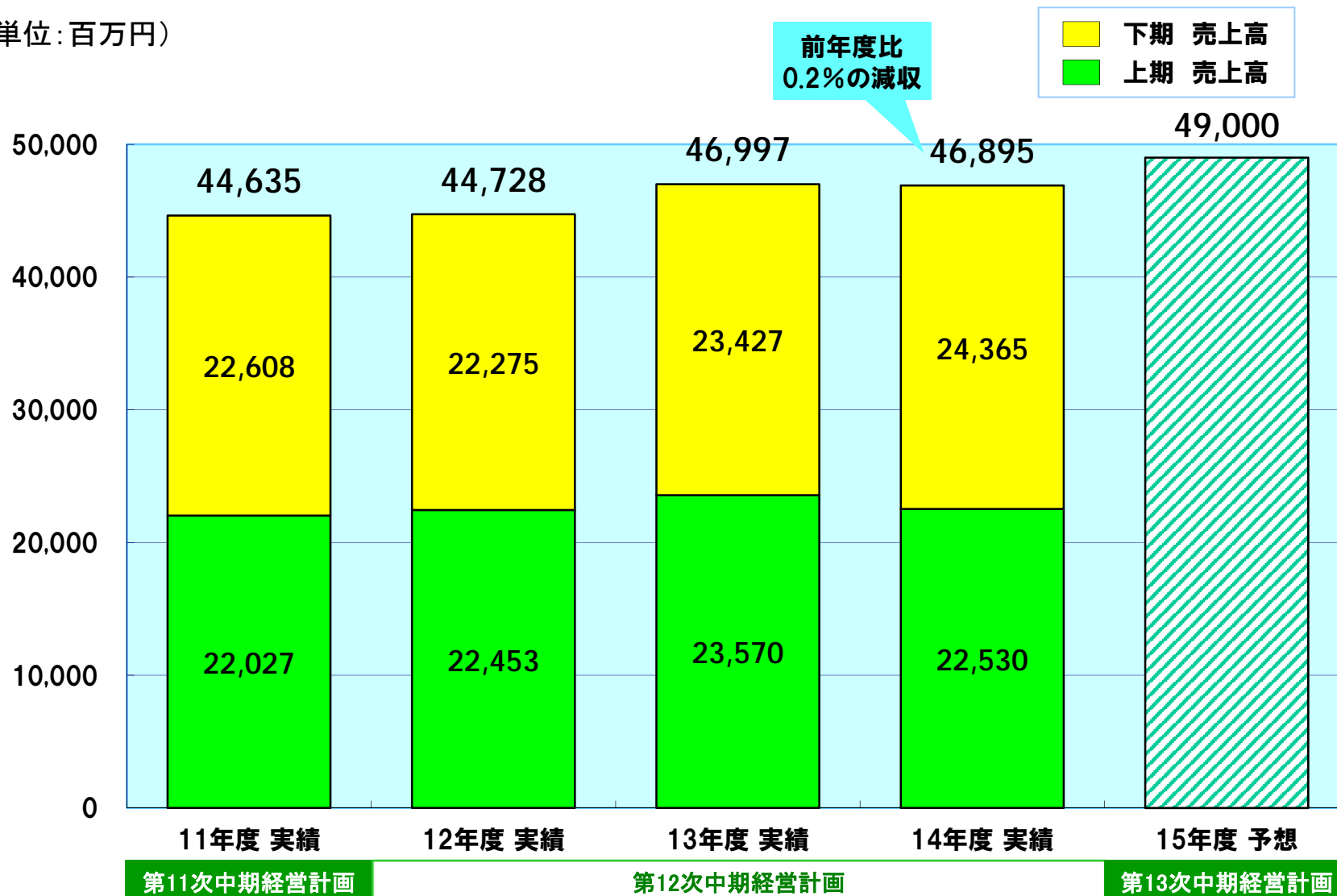
IV 2015年(平成27年)3月期 連結決算の概要

I 経営実績の推移

1

連結売上高

(単位:百万円)



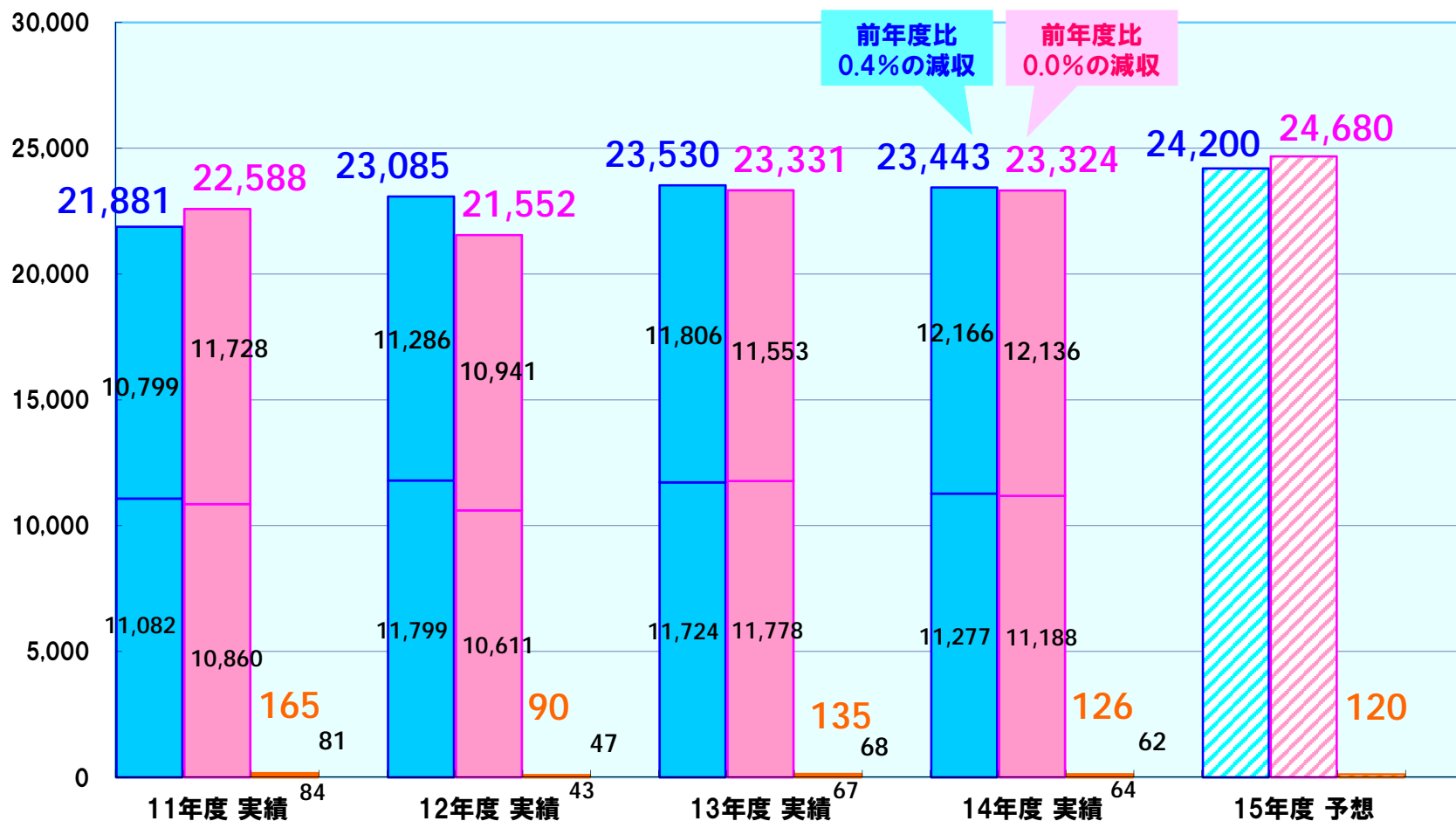
※換算レート ・15年度 1中国元=18円、1USドル=118円
 ・14年度 1中国元=19円、1USドル=120円

2

セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円)

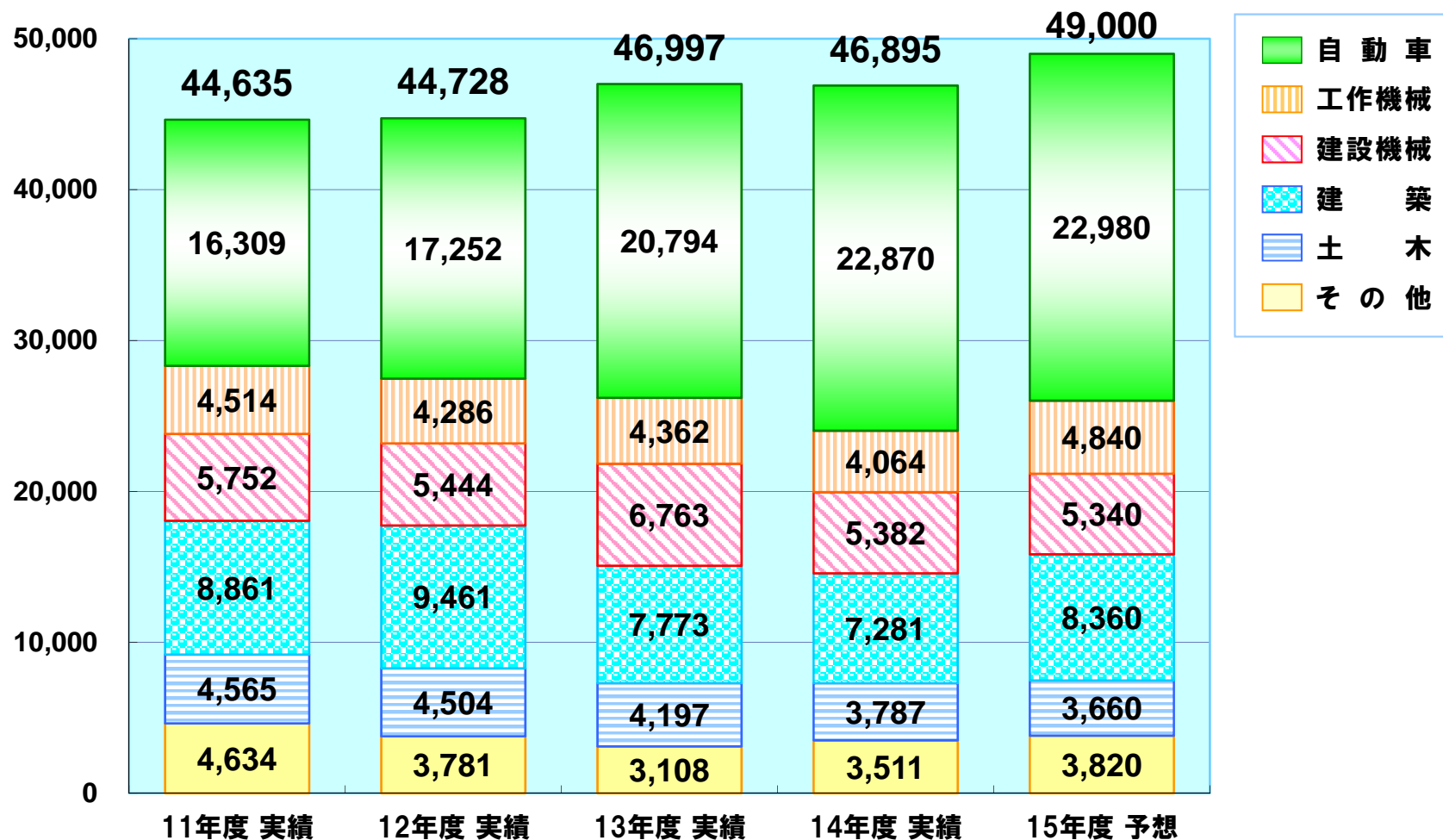
■ 製品事業部関連
■ IH事業部関連
■ その他



3

業界別売上高

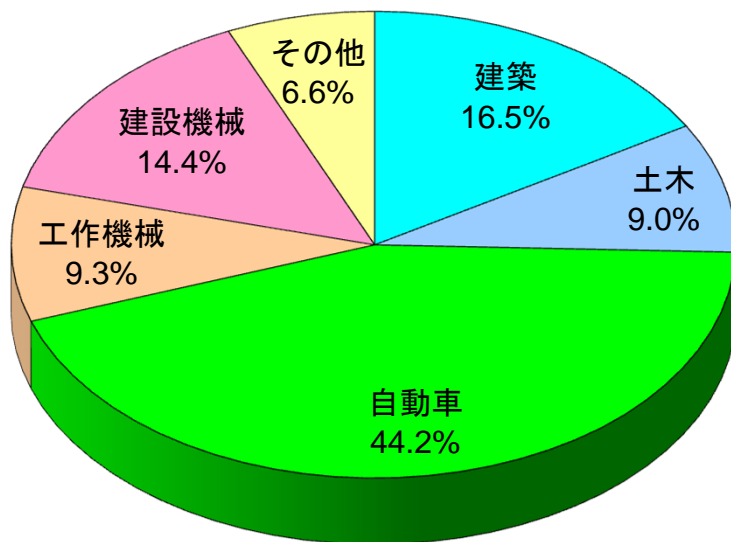
(単位:百万円)



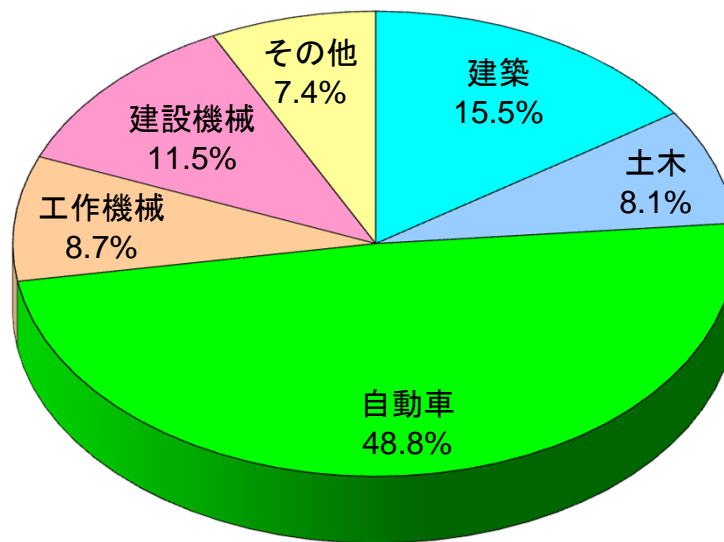
4

業界別売上高比率

2013年度実績



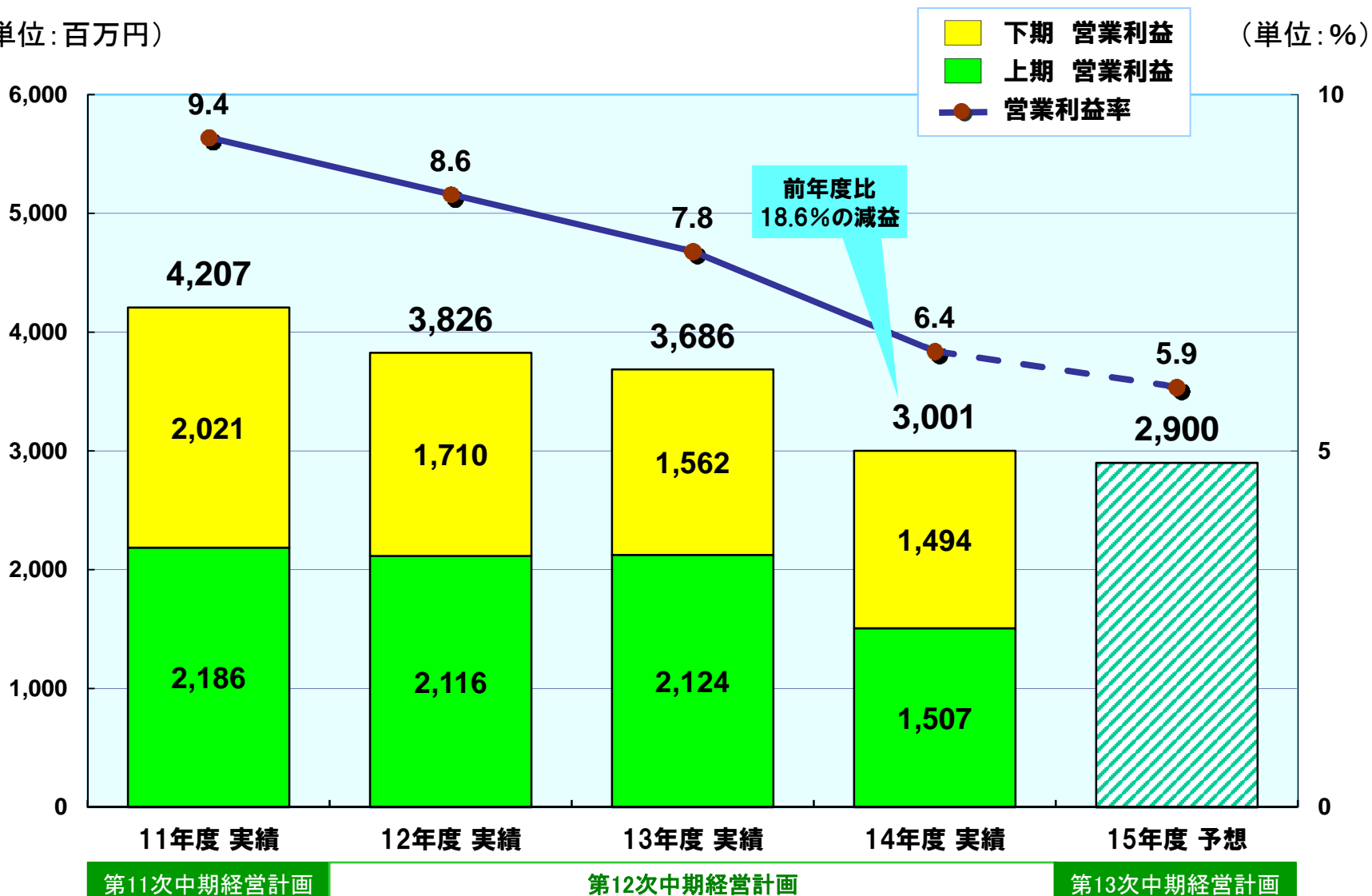
2014年度実績



5

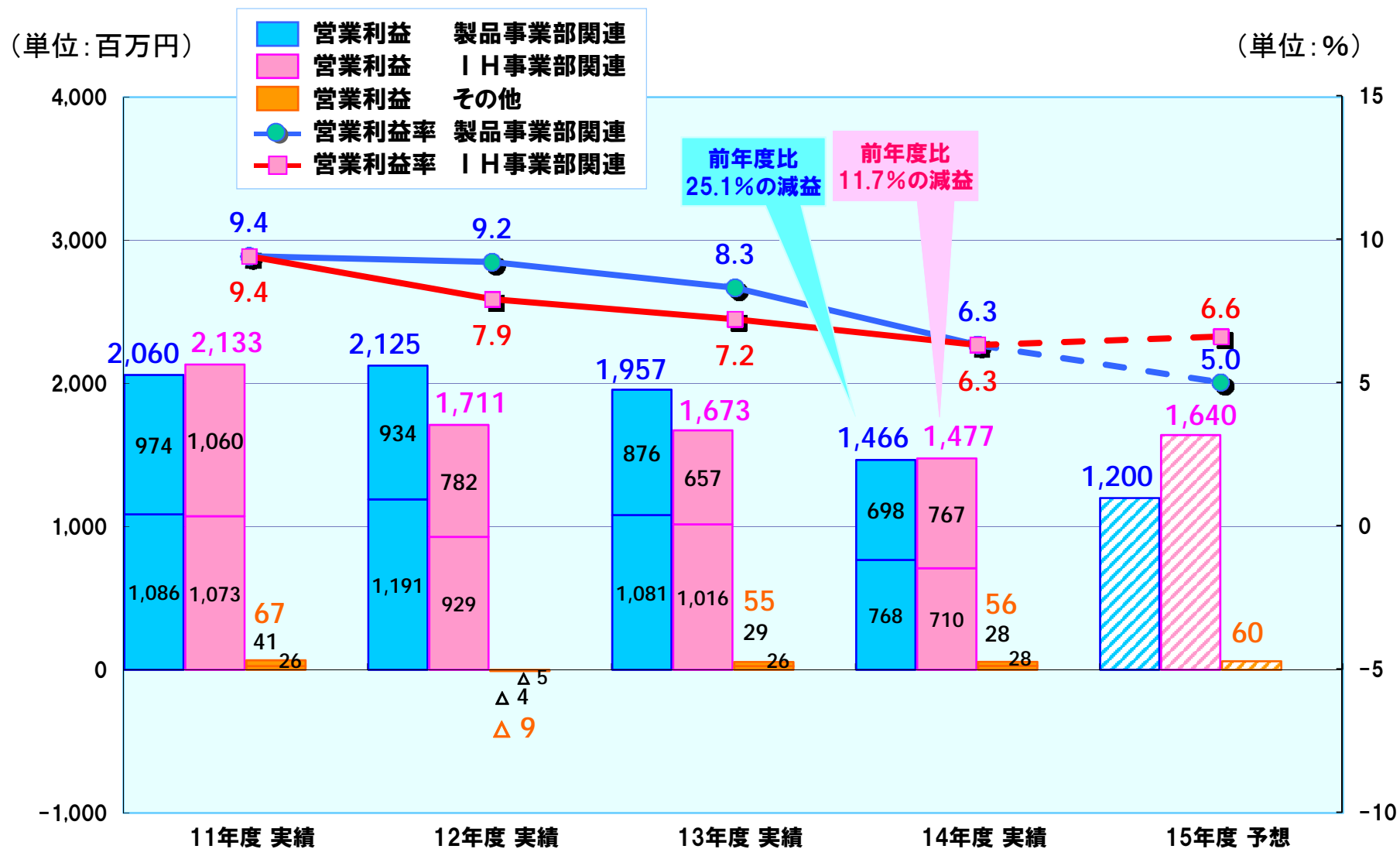
営業利益・営業利益率

(単位:百万円)



6

セグメント情報(営業利益・営業利益率)

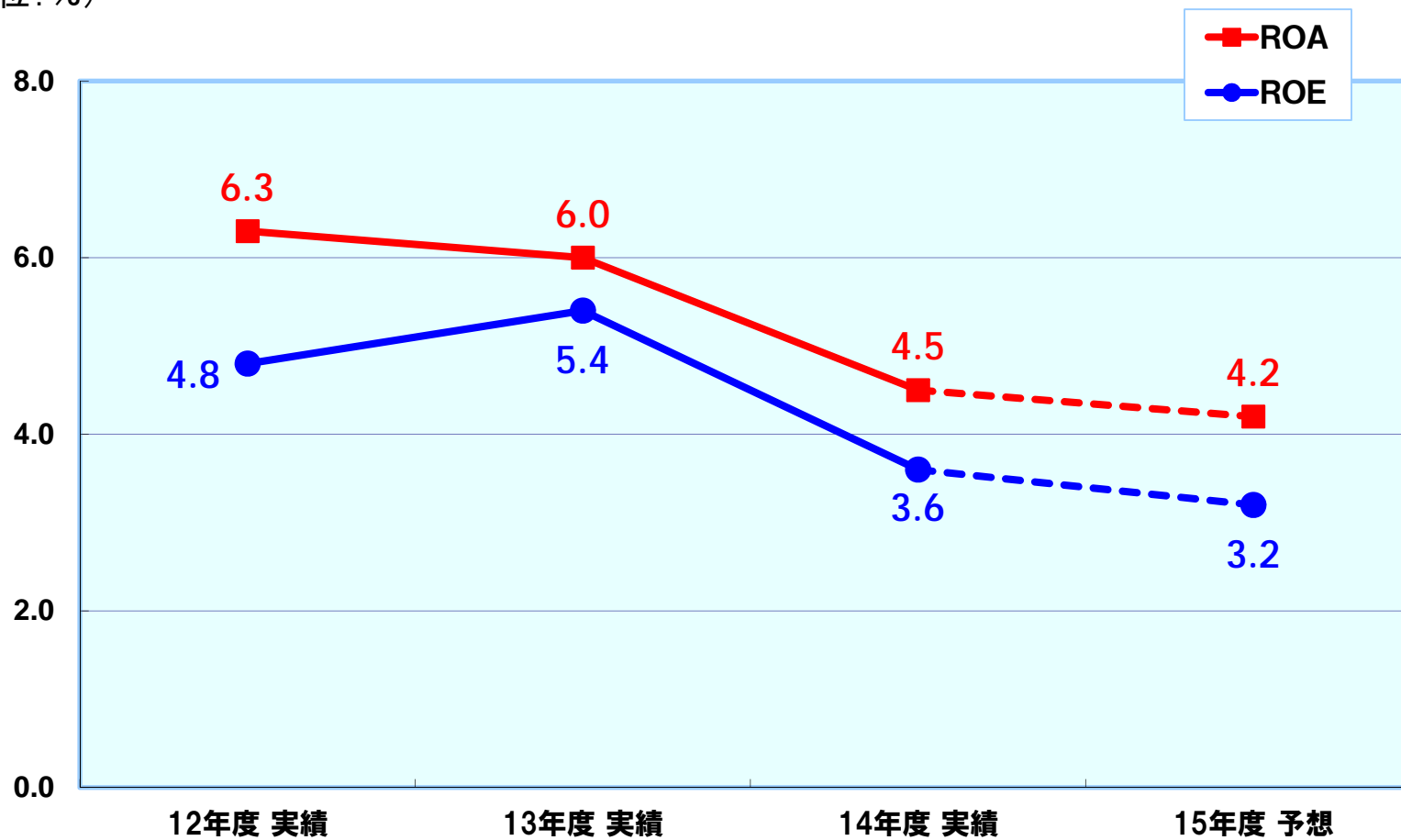


※セグメント間取引消去を含む。

7

ROA・ROE

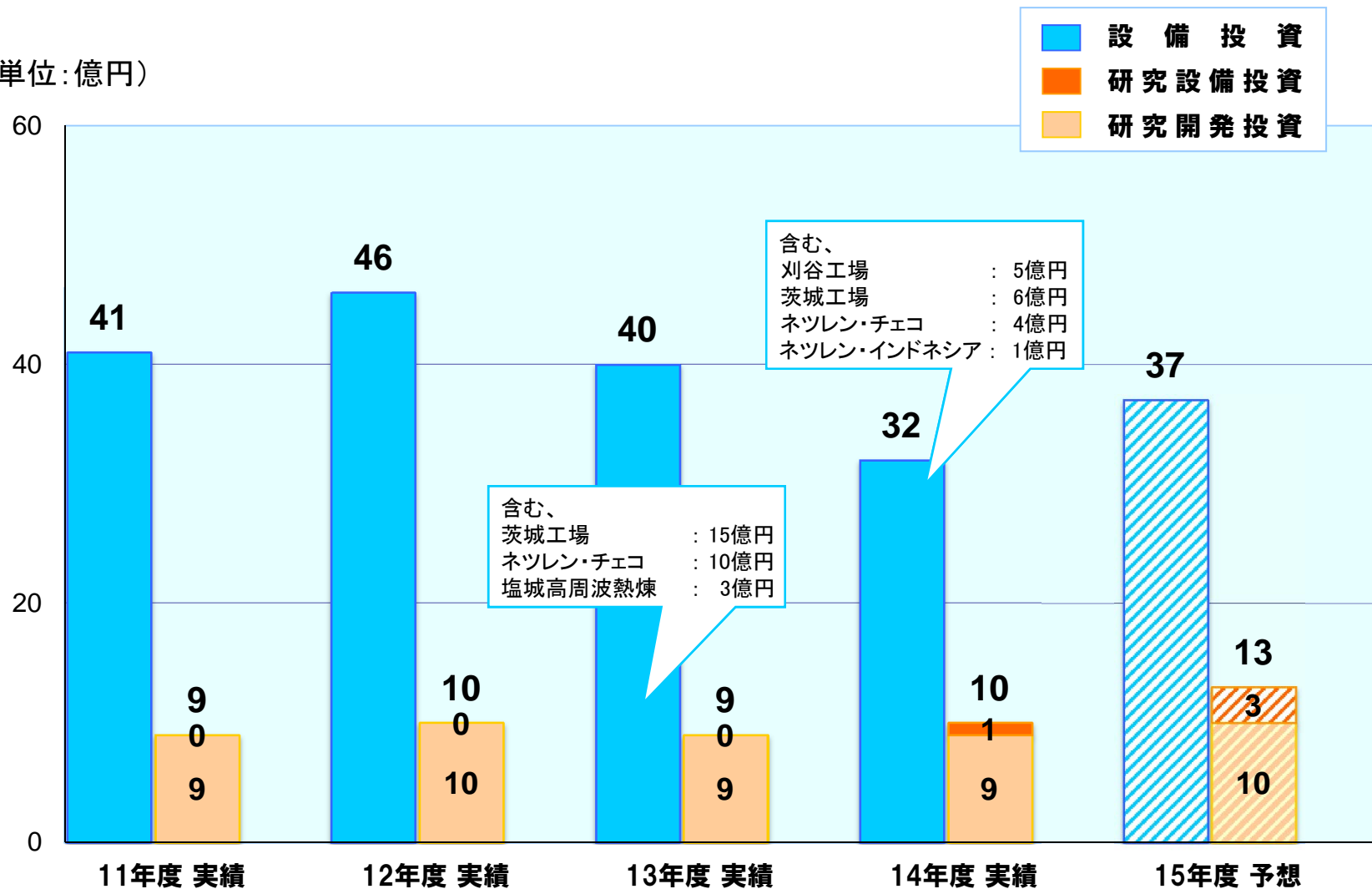
(単位:%)



8

設備投資・研究開発投資

(単位:億円)



基本方針

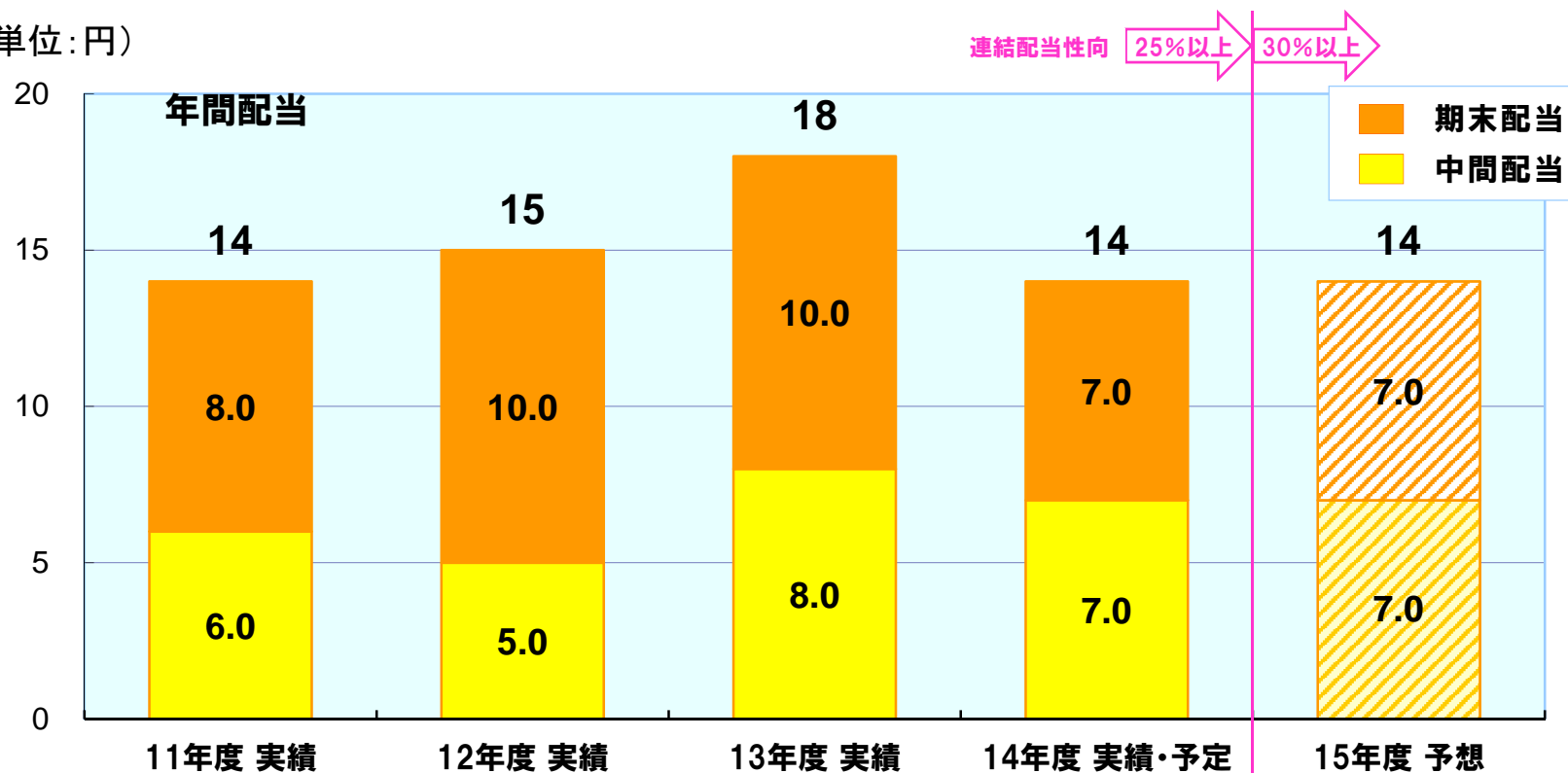
基本的には、安定した配当を継続していくという方針に加え、業績に応じた利益配分を行うこととし、当社グループを取り巻く経営環境および財務の状況等を勘案のうえ、決定していくことを基本方針としています。

なお、原則として、「安定した配当」については、当面、年10円を下限とし、また、「業績に応じた利益配分」については、連結配当性向30%以上を目処としています。

[適用時期] 平成28年3月期配当(中間配当、期末配当)から適用いたします。

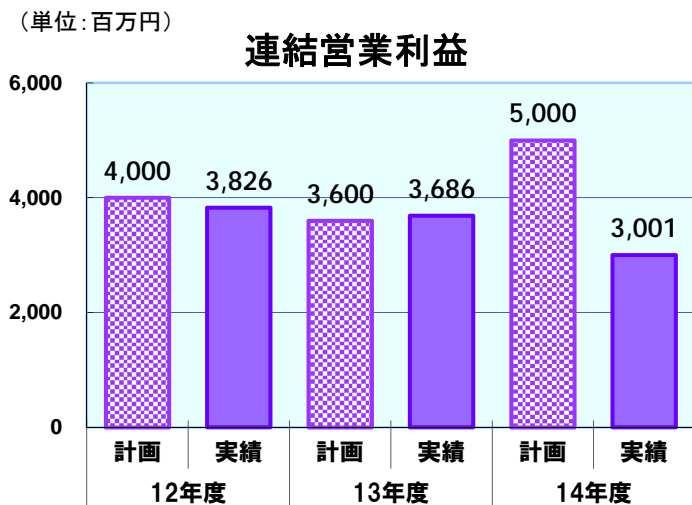
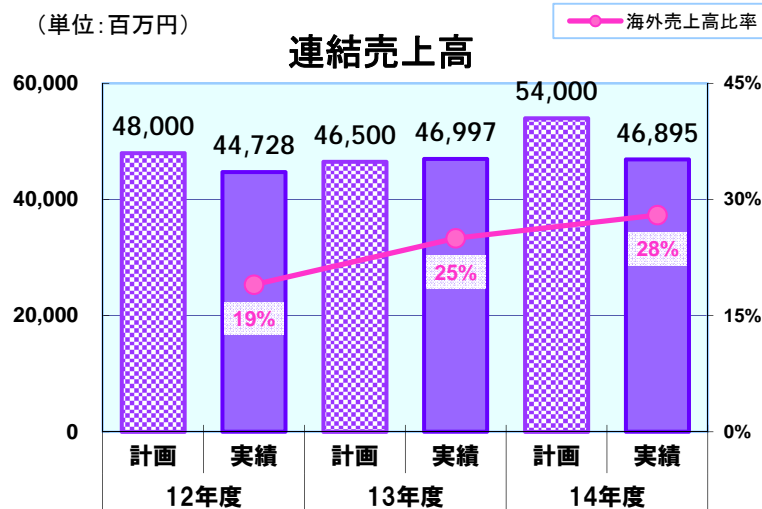
(2015年5月11日公表)

(単位:円)



Ⅱ 第12次中期経営計画の実績と第13次中期経営計画

第12次中期経営計画の実績(連結売上高・連結営業利益)



差異の主な要因

製品事業部関連	<ul style="list-style-type: none"> ○販売量の減少(人手不足により工事遅れ等) ○原材料値下げ分の価格への反映 ○高強度せん断補強筋販売量確保のための政策的値下げ ○新商品として見込んだ売上が未達 ○電力費アップ
	<ul style="list-style-type: none"> ○生産性向上+外注加工費減少
IH事業部関連	<ul style="list-style-type: none"> ○建設機械関係の需要の落ち込み <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎工場、神戸工場、茨城工場 ・特に超大型建機(マイニングが不振) ○電力費アップ
	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車部品受託加工および設備販売は好調

スローガン 「*Global Innovation 70th*」

(グローバル イノベーション セブンティース)

[趣旨]

安全・品質を基盤としつつNETUREN VISION 2020を確実に実行し、真のグローバル企業への飛躍を目指す。

[連結目標]

	2015年3月期 実績	2018年3月期 目標
売上高	468億円	600億円
営業利益	30億円	52億円
営業利益率	6.4%	8.8%
ROA(総資産経常利益率)	4.5%	6.7%
ROE(株主資本純利益率)	3.6%	5.3%

「Global Innovation 70th」

成長戦略を遂行するには積極的な海外事業展開と「経営」「技術」「生産」「機能」「人づくり」における革新が不可欠。創業70周年に向けて、果敢に革新的な変革に挑戦していく。

第1の柱： 安全管理体制と品質保証体制の更なる拡充とグローバル展開

第2の柱： NETUREN VISION 2020ロードマップの確実な遂行

- 技術開発力の強化と促進
- 新商品の開発と新規事業化
- グローバル事業の拡大
- 組織体制強化と全体最適な運営

第3の柱： グローバルに活動できる人財の確保と育成

Ⅲ 新商品・新技術の開発、新規事業の推進

13 新技術の開発(1)

“大型リング部品のソフトゾーンレス(継ぎ目無し)高周波焼入れ技術を開発”

超大型の回転・一発高周波焼入れ装置
(最大2,400kW、10kHz)を開発。



リング部品の全周均一加熱焼入れによる
「ソフトゾーンレス」化を実現(世界初)。



高精度と高生産性を両立。

<リング部品での継ぎ目(低硬さ部)の悪影響>

- 回転のスムーズさが悪化
- 耐久性が低下



[2015年3月16日にプレスリリース]

大型リング部品の主な焼入工法 (直径2m、硬化層深さ5mmを想定)

		高周波焼入れ		浸炭焼入れ (推定)
		ネットレン方式 「回転一発」焼入れ	「コイル移動」焼入れ (推定)	
処理時間	加熱・焼入時間(段取以外)	8分以内	45分程度	4~5日程度 (硬化層約8mm/以上層含)
寸法精度	真円度(最大径-最小径)	1mm程度	2~3mm程度	4mm程度
	熱処理後の研削量	少ない	多い	非常に多い(異常層研削含)
環境負荷	CO2排出量	少ない	一発焼入れより多い (処理時間長いため)	多い (ガス浸炭ではCO2直接排出)

“さらに進化した「次世代型高周波誘導加熱電源」を開発”

1. SiC-MOSFET半導体使用電源 [2015年5月18日にプレスリリース]



[従来] パワー半導体にはSiを使用したIGBTやMOSFETを使用して完全トランジスタ化。

[新開発] SiC-MOSFET半導体(次世代高効率パワー半導体としてハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)、電車で使用されている)を高周波誘導加熱電源(160kW、200kHz)に適用し、独自の**高速スイッチング技術**と組合せてさらに**高効率化**を実現。

[成果] 従来電源より**小型化**(当社比で容積約40%、重量約50%減)、**低コスト化**が可能で、自社に設置して実使用し、近い将来販売予定。

従来機とSiC半導体使用機の比較
(200kHz・160kW)

	従来機 (Si半導体)	開発機 (SiC半導体)
幅 (mm)	1,000	1,000
奥行 (mm)	800	600
高さ (mm)	1,950	1,500
重量 (kg)	900	420

2. 短時間定格電源

[従来] **最大使用可能電力での長時間連続加熱時の過負荷許容度**により定格設定し設計。

[新開発] 表面焼入用の**短時間+間歇加熱時の許容度を必要十分値に最適化(短時間定格)**。

[成果] 従来電源より**小型化**(当社比約50%減)、**低コスト化**を実現し販売開始。

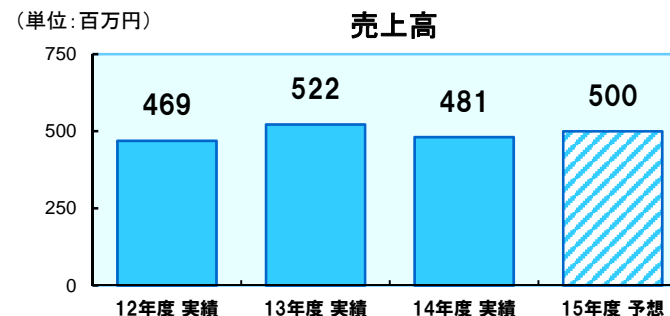
※定格： 機器製造者が限度保証する出力、電圧、電流周波数等。使用条件により連続定格、短時間定格等がある。

新規事業の推進

1. フロントフォークインナーチューブの加工・熱処理一貫加工の事業化の推進

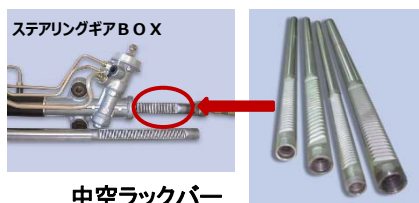


フロントフォークインナーチューブ

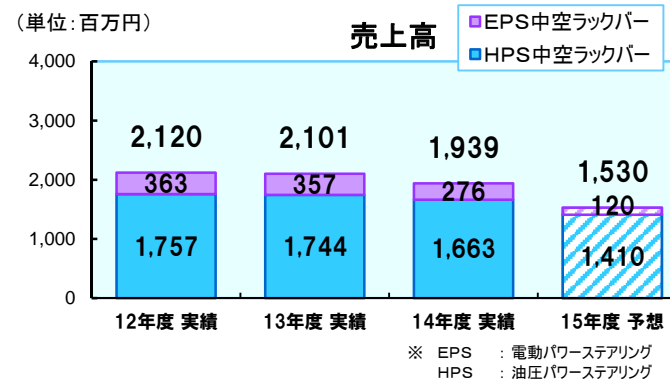


2. 電動パワーステアリング(EPS)用中空ラックバーの事業化の推進

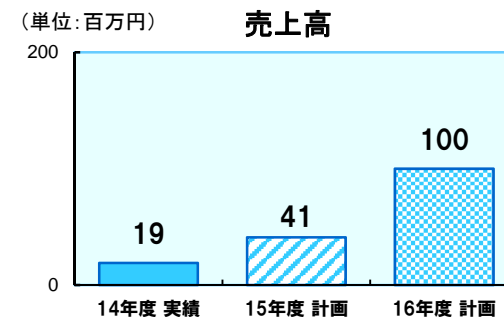
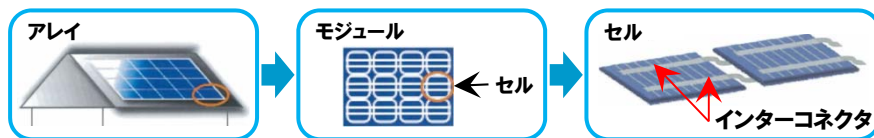
新工法による新型EPS用中空ラックバーの試作納入・拡販を推進中



中空ラックバー



3. 太陽電池用インターコネクタの事業化の推進



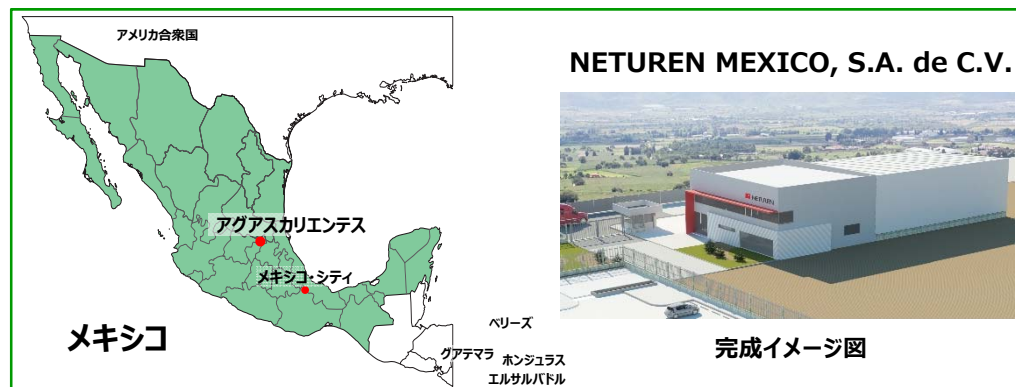
16 グローバル事業の展開(1)

“ Netzlen の固有技術を生かし北中米市場へ積極参入 ”

熱処理受託加工、IH(誘導加熱)設備販売・サービスおよび将来における部品一貫機械加工の強化を推進するため、メキシコに新会社を設立(2015年4月)

新事業の概要

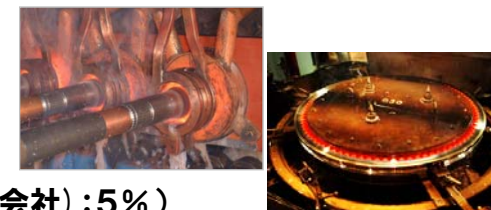
- 第1ステップ 熱処理受託加工およびIH(誘導加熱)装置等の販売・サービス
- 第2ステップ 熱処理を含めた部品の一貫機械加工



新会社の概要

NETUREN MEXICO, S. A. de C. V. (Netzlen・メキシコ可変資本株式会社)

- 所在地 メキシコ合衆国 アグアスカリエンテス州 PILA工業団地内
- 事業内容 熱処理受託加工およびIH(誘導加熱)装置等の販売・サービス
- 資本金 500万米ドル(約6億円)
- 事業形態 合併(Netzlen:95%、Neturen USA, INC. (当社100%出資子会社):5%)
- 操業開始 2016年3月予定

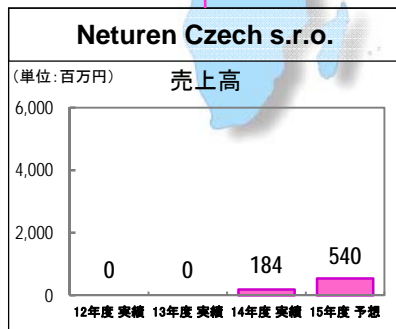


17 グローバル事業の展開(2)

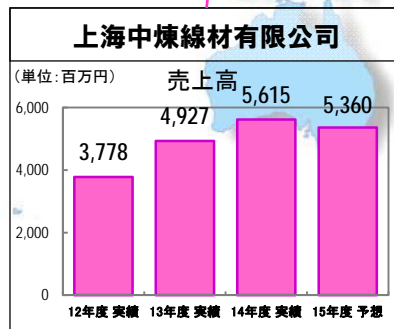
“高強度ばね鋼線(ITW)グローバルサプライネットワーク”

自動車部品メーカーからの高品質・高強度ばね鋼線(ITW)のニーズに応え、各地域の最適生産拠点より供給

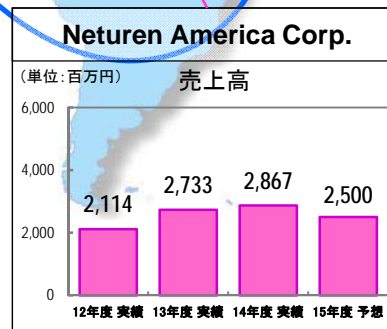
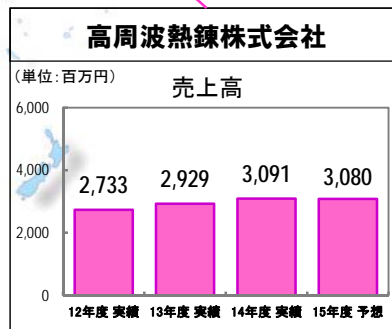
[欧州地域]



[アジア地域]



[北・中南米地域]

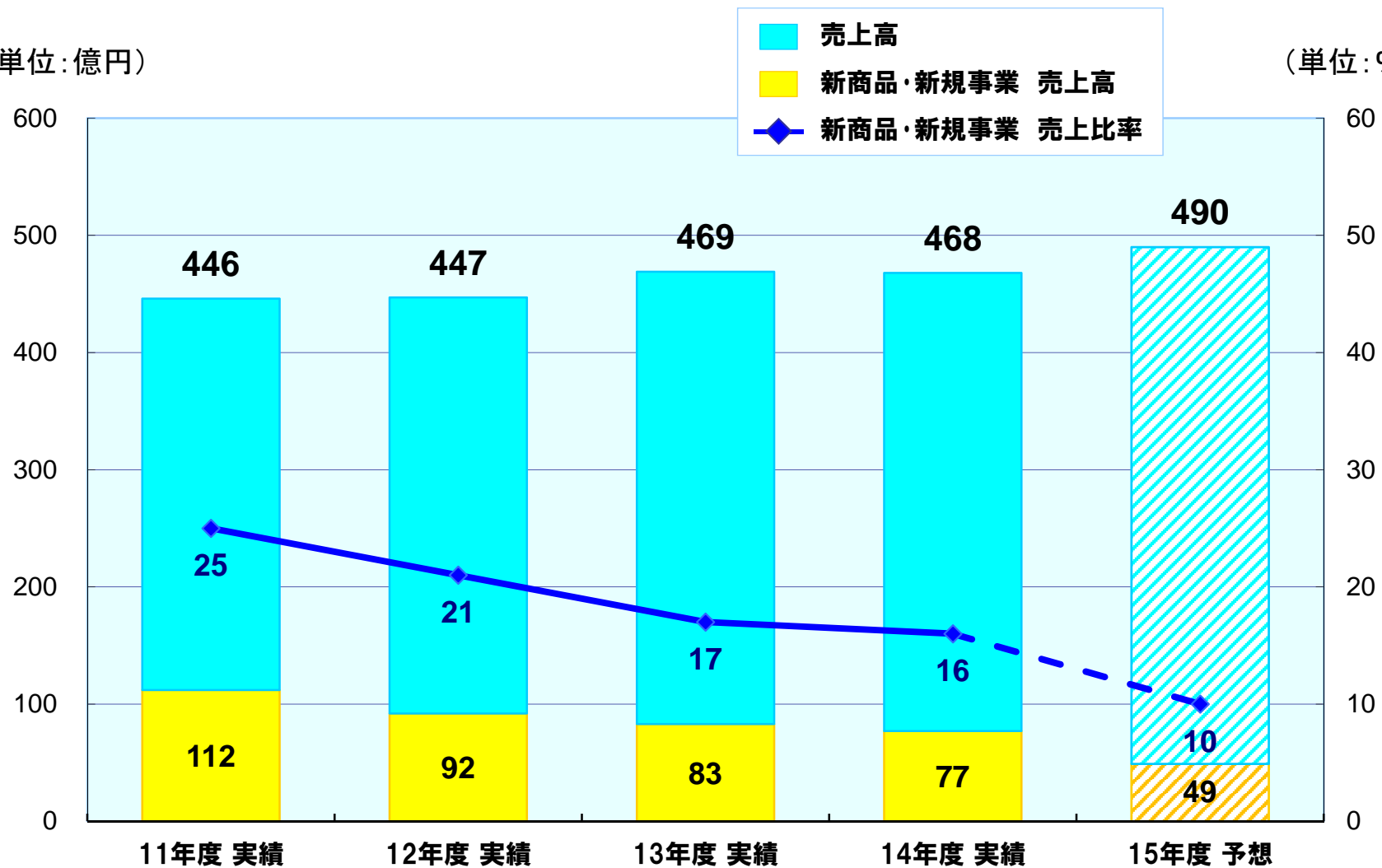


18

新商品・新規事業売上高

(単位:億円)

(単位:%)



※新商品・新規事業売上高は、 Netzレン新商品・新規事業売上基準による。

IV 2015年(平成27年)3月期 連結決算の概要

1. 全般

建設業界および建設機械業界からの受注の減少が、当社グループの業績に影響を与えました。

売上高	46,895百万円	(前年同期比	0.2%の減収)
営業利益	3,001百万円	(前年同期比	18.6%の減益)
経常利益	3,620百万円	(前年同期比	18.6%の減益)
当期純利益	2,105百万円	(前年同期比	28.4%の減益)

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

① 建設関連製品

主として建設コストの高騰によって、着工件数が伸び悩んだことなどにより、前年同期と比較し減少いたしました。

② 高強度ばね鋼線(ITW)

顧客からの受注が、比較的堅調に推移しており、前年同期と比較し増加いたしました。

③損益

売上高 23,443百万円（前年同期比 0.4%の減収）

営業利益 1,466百万円（前年同期比 25.1%の減益）

(2) IH事業部関連事業**①熱処理受託加工関連**

前年同期と比較し増加いたしました。

②建設機械部品関連および誘導加熱装置関連

建設機械業界からの受注の回復が遅れていること、中国での受注が低迷したことにより、減少いたしました。

③自動車部品関連

中国での販売量が増加したものの、国内の販売量が減少したことにより、前年同期並みとなりました。

④損益

売上高 23,324百万円（前年同期比 0.0%の減収）

営業利益 1,477百万円（前年同期比 11.7%の減益）

(3) その他**① 不動産賃貸事業等**

小規模ではありますが、安定的に業績に寄与しております。

② 損益

売上高	126百万円	(前年同期比	6.0%の減収)
営業利益	56百万円	(前年同期比	2.5%の増益)

3. 先行き不透明感が強い中、フリーキャッシュ・フローの黒字、実質的な無借金経営、高い自己資本比率など、健全かつ強固な財務体質を維持しています。

(単位:百万円・%)

	2014年 3月期	2015年 3月期	増 減	増減率
売 上 高	46,997	46,895	△ 101	△ 0.2
営 業 利 益	3,686	3,001	△ 685	△ 18.6
経 常 利 益	4,449	3,620	△ 829	△ 18.6
当 期 純 利 益	2,939	2,105	△ 833	△ 28.4
R O A	6.0	4.5	△ 1.5	-
R O E	5.4	3.6	△ 1.8	-

(単位:百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	2015年 3月期	前年同期比		直前四半期比	
	第4四半期	第3四半期	第4四半期	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)
製品事業部関連事業	6,274	5,905	6,260	△ 14	△ 0.2	354	6.0
IH事業部関連事業	6,625	5,458	6,677	52	0.8	1,219	22.3
その他	35	31	30	△ 4	△ 13.8	△ 0	△ 0.7
売上高	12,936	11,395	12,969	33	0.3	1,574	13.8
製品事業部関連事業	518	302	395	△ 123	△ 23.7	92	30.5
IH事業部関連事業	408	227	540	131	32.2	313	137.8
その他	13	13	13	0	0.9	0	0.5
営業利益	941	543	949	8	0.9	405	74.6
経常利益	1,121	863	1,157	36	3.3	294	34.1
四半期純利益	692	527	567	△ 125	△ 18.1	40	7.6

24

セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円・%)

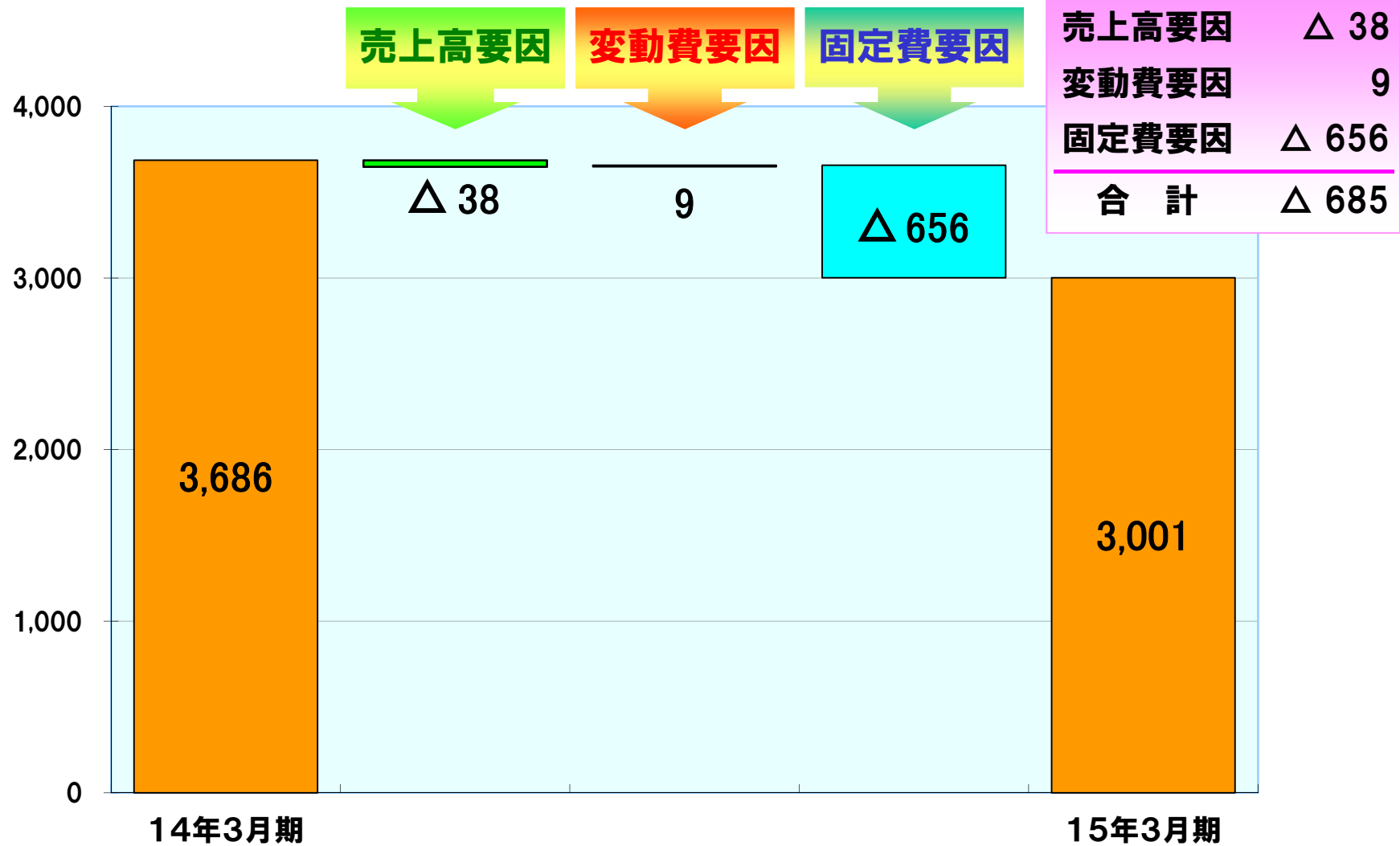
事業区分	主な製品	2014年 3月期	2015年 3月期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	23,530	23,443	△ 86	△ 0.4
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	23,331	23,324	△ 7	△ 0.0
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	135	126	△ 8	△ 6.0
合 計		46,997	46,895	△ 101	△ 0.2

(単位:百万円・%)

事業区分	主な製品	2014年 3月期	2015年 3月期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	1,957	1,466	△ 491	△ 25.1
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	1,673	1,477	△ 195	△ 11.7
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	55	56	1	2.5
合 計		3,686	3,001	△ 685	△ 18.6

26 連結營業利益増減内容

(単位:百万円)



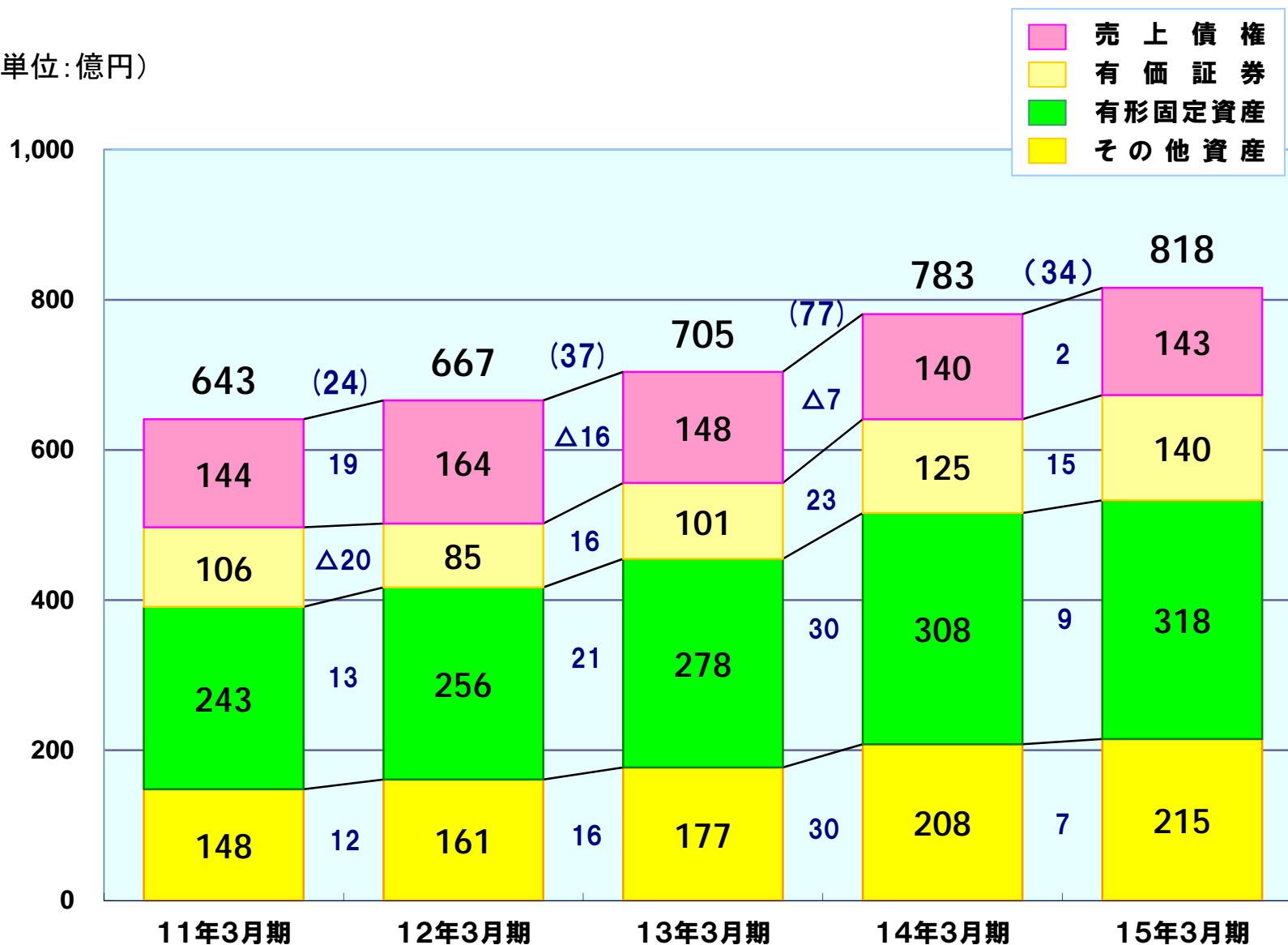
比較連結損益計算書

(単位:百万円・%)

科目	期別	2014年 3月期	2015年 3月期	増減	増減率
売上高		46,997	46,895	△ 101	△ 0.2
売上原価		36,814	37,465	651	1.8
売上総利益		10,183	9,429	△ 753	△ 7.4
販売費及び一般管理費		6,496	6,428	△ 68	△ 1.0
営業利益		3,686	3,001	△ 685	△ 18.6
営業外収益		862	799	△ 62	△ 7.3
営業外費用		99	180	81	81.9
経常利益		4,449	3,620	△ 829	△ 18.6
特別利益		190	60	△ 129	△ 68.0
特別損失		23	94	70	295.2
税金等調整前当期純利益		4,615	3,586	△ 1,028	△ 22.3
法人税、住民税及び事業税		1,206	886	△ 320	△ 26.5
法人税等調整額		18	179	160	849.3
少数株主利益		450	414	△ 36	△ 8.0
当期純利益		2,939	2,105	△ 833	△ 28.4

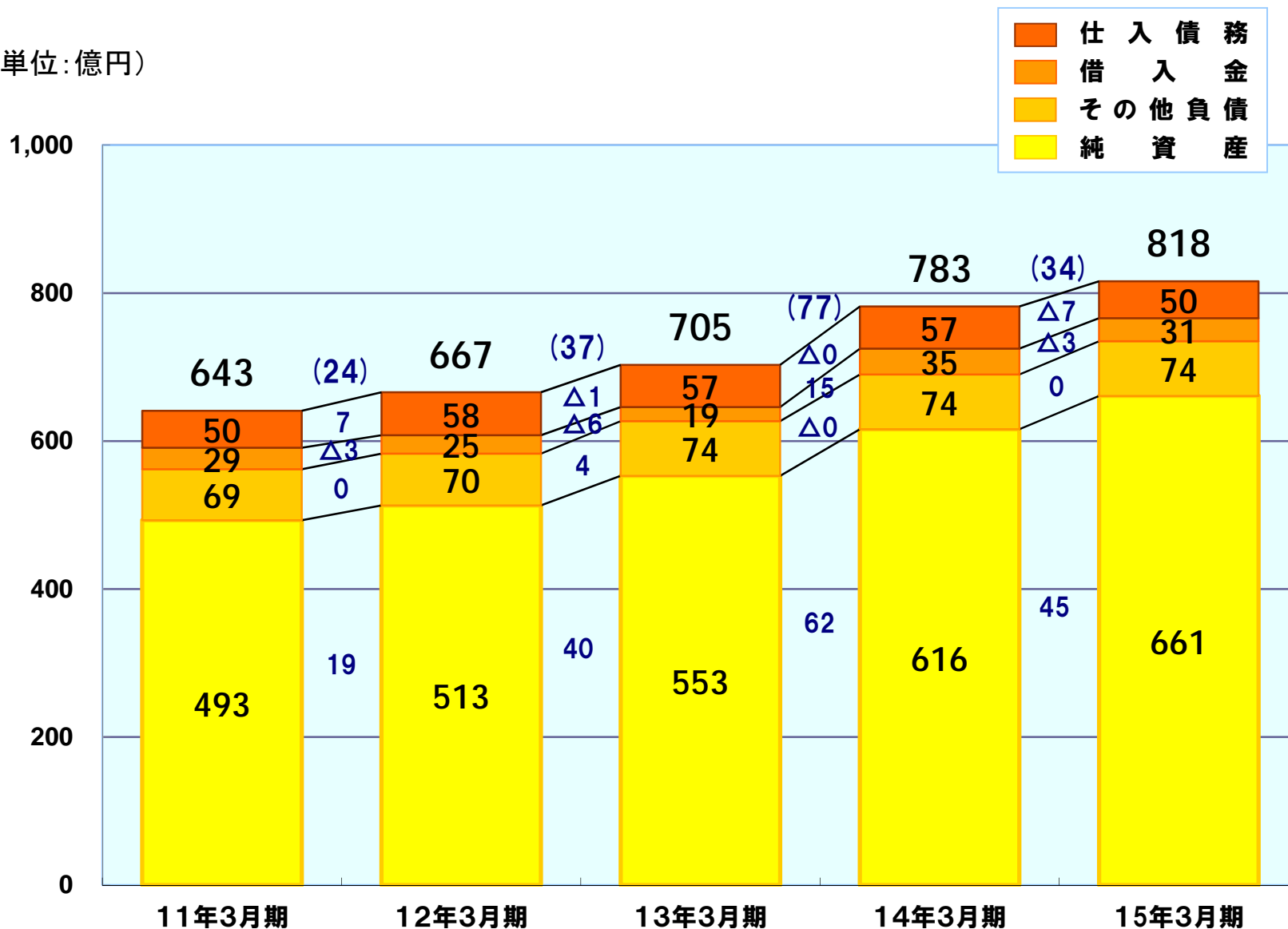
2015年3月期 資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



2015年3月期 負債・純資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



(単位:百万円)

科 目	2014年 3月期	2015年 3月期	対前年同期比 増 減
税金等調整前当期純利益	4,615	3,586	△ 1,028
減価償却費	2,651	2,967	315
売上債権の増減	1,151	67	△ 1,084
仕入債務の増減	△ 198	△ 868	△ 670
その他	△ 2,422	△ 1,060	1,362
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,797	4,692	△ 1,104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,516	△ 3,017	2,498
フリーキャッシュ・フロー	281	1,675	1,394
借入金	1,311	△ 525	△ 1,836
自己株式の取得	△ 0	△ 0	0
配当金の支払額	△ 767	△ 724	42
その他	37	△ 143	△ 180
財務活動によるキャッシュ・フロー	581	△ 1,393	△ 1,974
キャッシュ・フロー期末残高	12,684	13,422	738

	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期
① 自己資本比率	73.1	72.4	73.1	72.1	73.5
② 時価ベースの自己資本比率	48.3	48.7	42.9	35.8	46.4
③ キャッシュ・フロー対有利子負債比率	0.8	0.7	0.4	0.6	0.7
④ インタレスト・カバレッジ・レシオ	42.1	46.3	69.9	78.2	68.2

1. 全般

景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、建設業界や建設機械業界からの受注が本格的な回復に至るまでには、なお時間を要すると想定している。

第13次中期経営計画「*Global Innovation 70th*」に基づき、海外事業投資を含む積極的な事業展開を実施し、収益力の向上を図っていく。

売上高	49,000百万円	(前年同期比	4.5%の増収)
営業利益	2,900百万円	(前年同期比	3.4%の減益)
経常利益	3,400百万円	(前年同期比	6.1%の減益)
当期純利益	1,900百万円	(前年同期比	9.8%の減益)

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

① 建設関連製品

建設コストの高騰による着工件数の伸び悩みが継続し、また、価格・シェア競争も激化すると予想している。

②高強度ばね鋼線(ITW)

受注量が、堅調に推移すると予想している。

③損益

売上高 24,200百万円(前年同期比 3.2%の増収)

営業利益 1,200百万円(前年同期比 18.1%の減益)

(2) IH事業部関連事業**①熱処理受託加工関連**

自動車・工作機械業界からの受注量が、堅調に推移すると予想している。

②建設機械部品関連

受注回復にはなお時間を要し、また、中国での受注の低迷も継続すると予想している。

③誘導加熱装置関連

納入時期のズレおよび大型物件の受注があり、受注量は増加すると予想している。

④自動車部品関連

中空ラックバーは、モデル末期の車種があり、受注量は減少すると予想している。

⑤損益

売上高	24,680百万円	(前年同期比	5.8%の増収)
営業利益	1,640百万円	(前年同期比	11.0%の増益)

(3) その他

売上高	120百万円	(前年同期比	4.8%の減収)
営業利益	60百万円	(前年同期比	7.1%の増益)

1. 海外拠点を含めた安全・品質の確保を最優先とした事業運営
2. アクションプランに基づいた開発案件の迅速な実用化と市場投入
3. 大型プロジェクトの情報収集強化および工法開発を含む受注活動の推進
4. 茨城工場・神戸工場の事業拡大
5. 海外事業の確実な立ち上げおよび積極的な業務改善
6. 全社的なコストダウン(特に電力原単位を重視)の強化

(単位:百万円・%)

事業区分	2015年 3月期	2016年 3月期 (予想)	増減	増減率
製品事業部 関連事業	23,443	24,200	757	3.2
I H 事業部 関連事業	23,324	24,680	1,356	5.8
その他	126	120	△ 6	△ 4.8
合計	46,895	49,000	2,105	4.5

(単位:百万円・%)

事業区分	2015年 3月期	2016年 3月期 (予想)	増減	増減率
製品事業部 関連事業	1,466	1,200	△ 266	△ 18.1
I H 事業部 関連事業	1,477	1,640	163	11.0
その他	56	60	4	7.1
合計	3,001	2,900	△ 101	△ 3.4

38

連結設備投資額

(単位:百万円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期 (予想)
設備投資額	4,627	4,091	3,232	3,700
減価償却費	2,669	2,651	2,967	2,800

1. 顧客ニーズに合った新商品開発および市場投入までのスピードアップ
2. 省エネの推進による電気料金の値上げに対する的確な対応
3. 震災復興・大型プロジェクトの需要対応および安定した品質の製品のタイムリーな市場への提供
4. グローバル展開推進の戦略構築・技術力向上・人財の確保と育成および管理体制強化による業績貢献・リスクマネジメント推進



(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、公表時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。